

Ⅱ 調査結果の概要

I 調査結果の概要

1. 男女平等に関する意識について

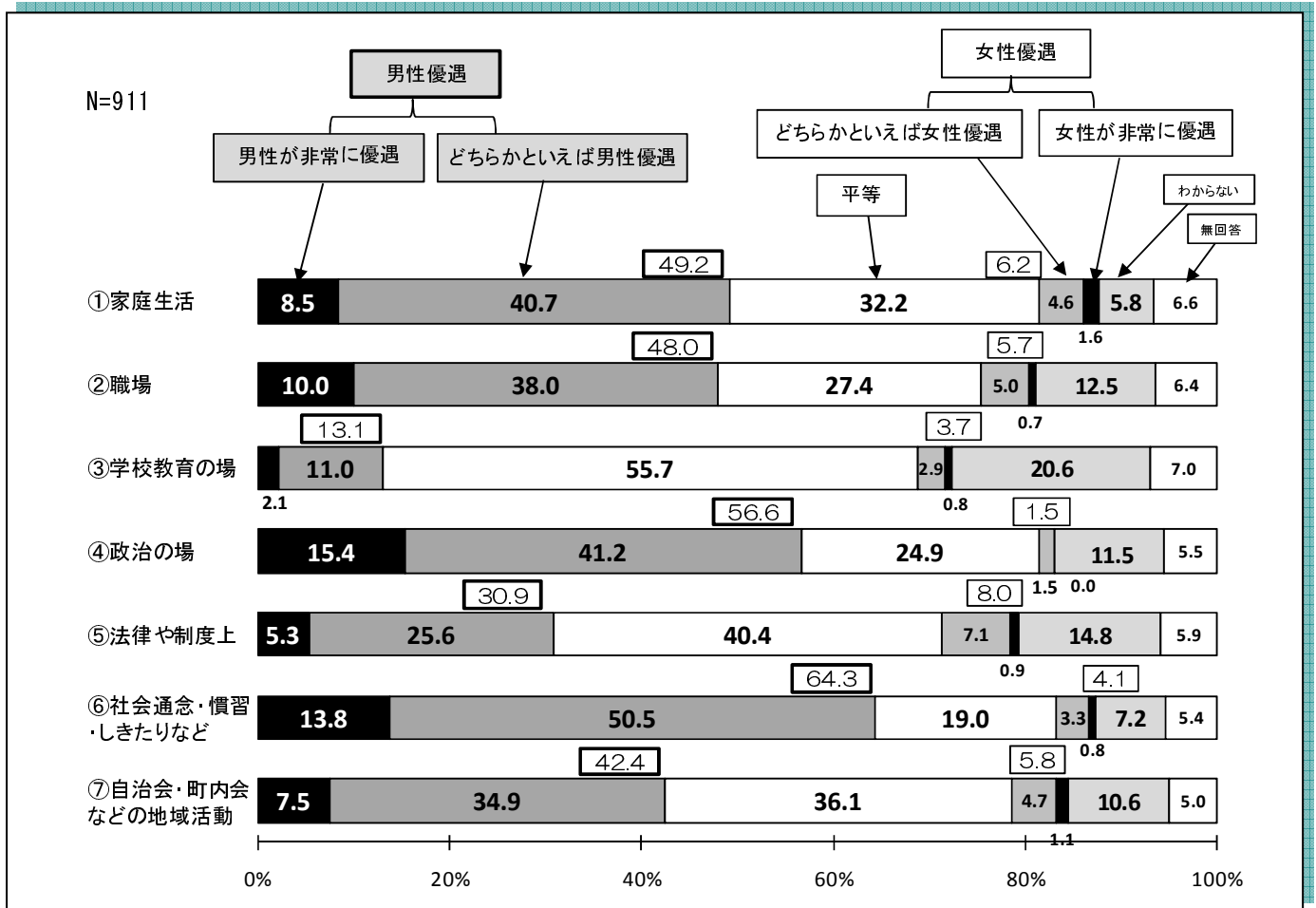
(1) 男女の地位の平等感

男女の地位の平等感について、7つの分野に分けてみると、「平等」とした割合は「学校教育の場」が55.7%と最も多く、次いで「法律や制度上」が40.4%、「自治会・町内会などの地域活動」が36.1%、「家庭生活」が32.2%となっている。

男性が優遇（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）とした割合は、「社会通念・慣習・しきたりなど」が64.3%、「政治の場」が56.6%、「家庭生活」が49.2%、「職場」が48.0%、「自治会・町内会などの地域活動」が42.4%となり、いずれも「平等」とする割合を上回っている。

「学校教育の場」を除いて平等感の意識は薄いのが、前回調査（平成17年）と比べると、「学校教育の場」を除いた6つの分野では、「平等」とした割合は4～7ポイント増加しており、不平等感は徐々に改善されてきている傾向にあると思われる。（「学校教育の場」の「平等」とした割合は前回56.0%、今回55.7%）。

■ 男女の地位の平等感



内の数値は男性が優遇（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）とした割合
 内の数値は女性が優遇（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性優遇」）とした割合

富山県、全国と比較すると、富山市において最も平等感が高い「学校教育の場」においては、富山県、全国でも「平等」が最も多くなっているが、特に全国は 68.1%と、富山市に比べて 12.4 ポイント多い。

(2) 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について

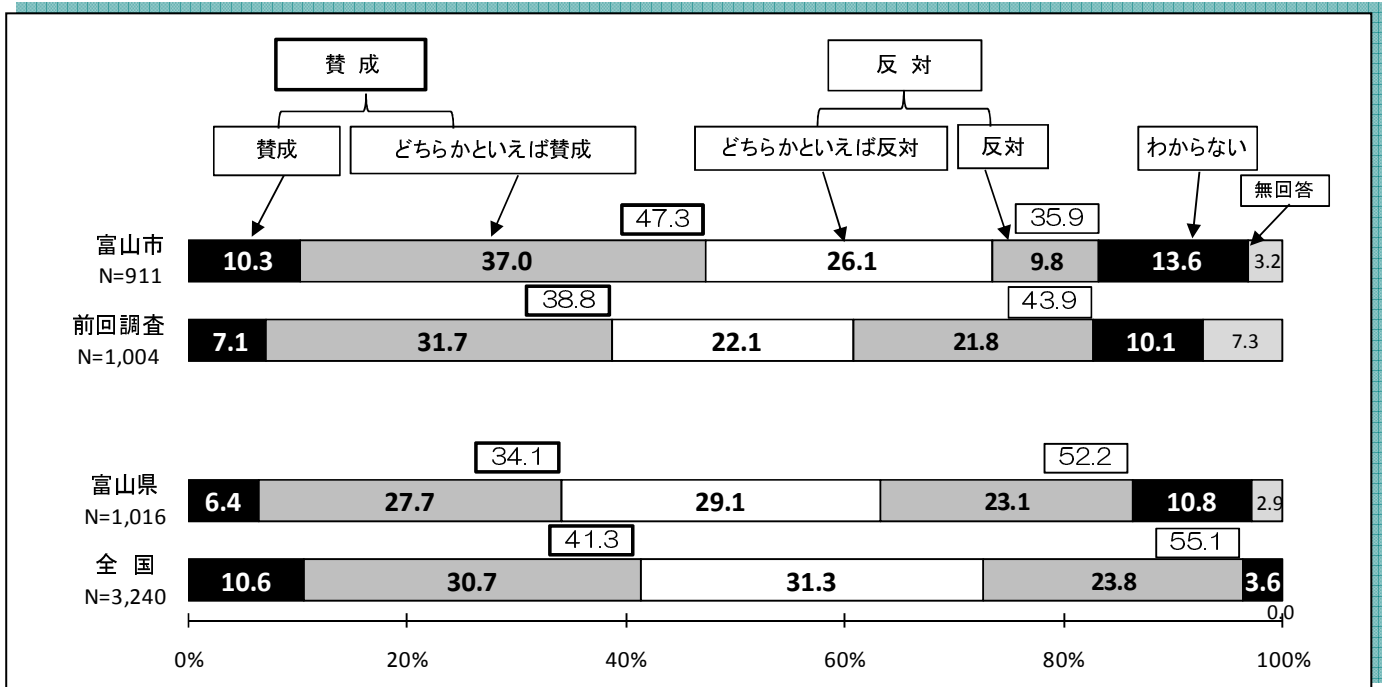
「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、賛成とした割合（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）は 47.3%と、反対とした割合（35.9%）を 11.4 ポイント上回っている。

前回調査と比較すると、賛成とした割合が 8.5 ポイント増加し、「反対」が 8.0 ポイント減少した。男性は賛成とした割合が 54.5%と、女性に比べ 13.7 ポイント多くなっている。特に年齢層が高いほど賛成とした割合が多くなっている。女性は反対が 43.0%と、男性を 15.1 ポイント上回っている。特に「40～50 歳代」で「反対」が 5 割を超えている。

富山県、全国と比較すると、富山県、全国はともに「反対」とした割合が「賛成」とした割合より多くなっている。

「賛成」とした割合は、富山市 47.3%、富山県 34.1%、全国 41.3%となり、富山市は富山県に比べて 13.2 ポイント、全国に比べて 6 ポイント多く、固定的性別役割分担意識が強いと思われる。

■ 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について



- 内の数値は賛成（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）とした割合
- 内の数値は反対（「反対」＋「どちらかといえば反対」）とした割合

※前回調査、富山県、全国の数値は、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する回答

(3) 地域活動での男女の役割分担について

地域活動での男女の役割分担について、「主な役職には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が53.2%と最も多く、次いで「女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない(少ない)」が35.2%、「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」が30.7%となっている。

上位にあげられた項目は、前回調査と比べてほぼ同様な傾向にある。また男女間で大きな違いはない。

2. 家庭生活、育児、介護について

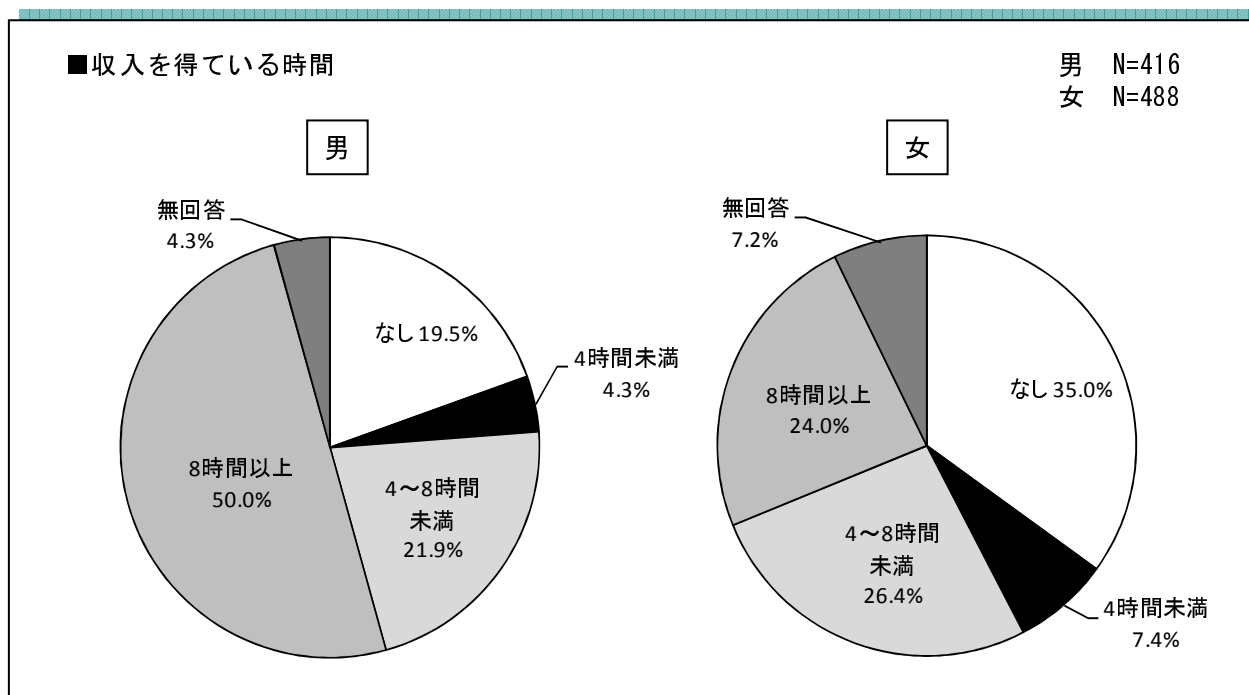
(1) 一日の時間の使い方

一日の時間の使い方をみる。

ここでは、回答者全員に、労働時間、家事時間、育児時間、介護時間、余暇時間について、平日と休日に分け、時間数を回答してもらっている。あくまでも、仕事をしている人の労働時間数、子どもを持つ人の育児時間数、介護の必要がある人がいる人の介護時間数ではない。よってそれぞれの時間の使い方において「なし」が多いが、たとえば、育児時間が「なし」としている人は子どもがいない、とは言えないため、全回答者の男女別でみていく。

①収入を得ている労働時間

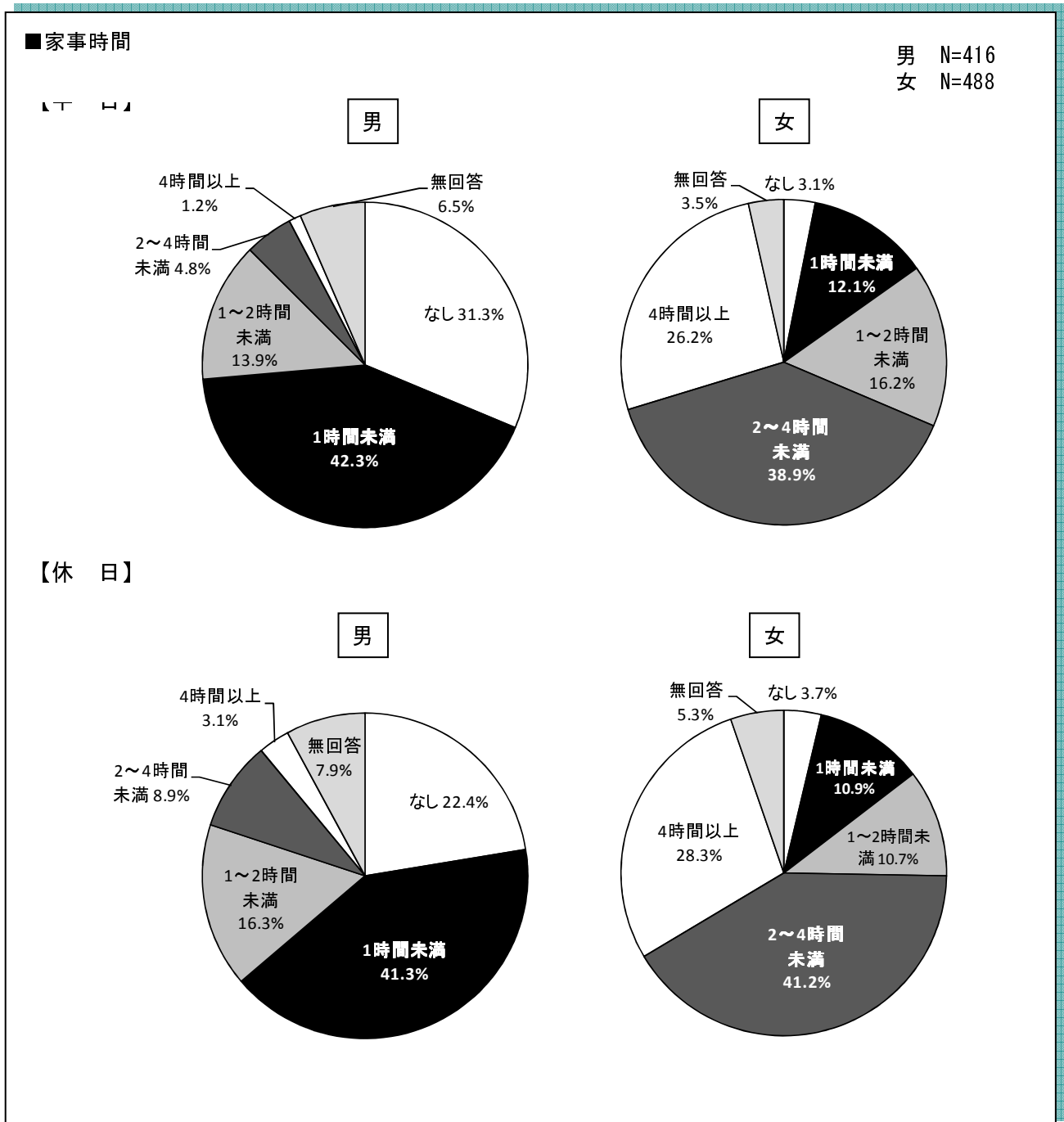
収入を得ている労働時間は、男性は「8時間以上」が半数を占め、女性は「8時間以上」が24.0%、「4～8時間未満」が26.4%となっている。



②家事時間

家事時間は、平日では、女性は「2～4時間未満」が38.9%、「4時間以上」が26.2%と2時間以上が65.1%となっている。男性は「1時間未満」が42.3%、「1時間以上」が19.9%となっている。

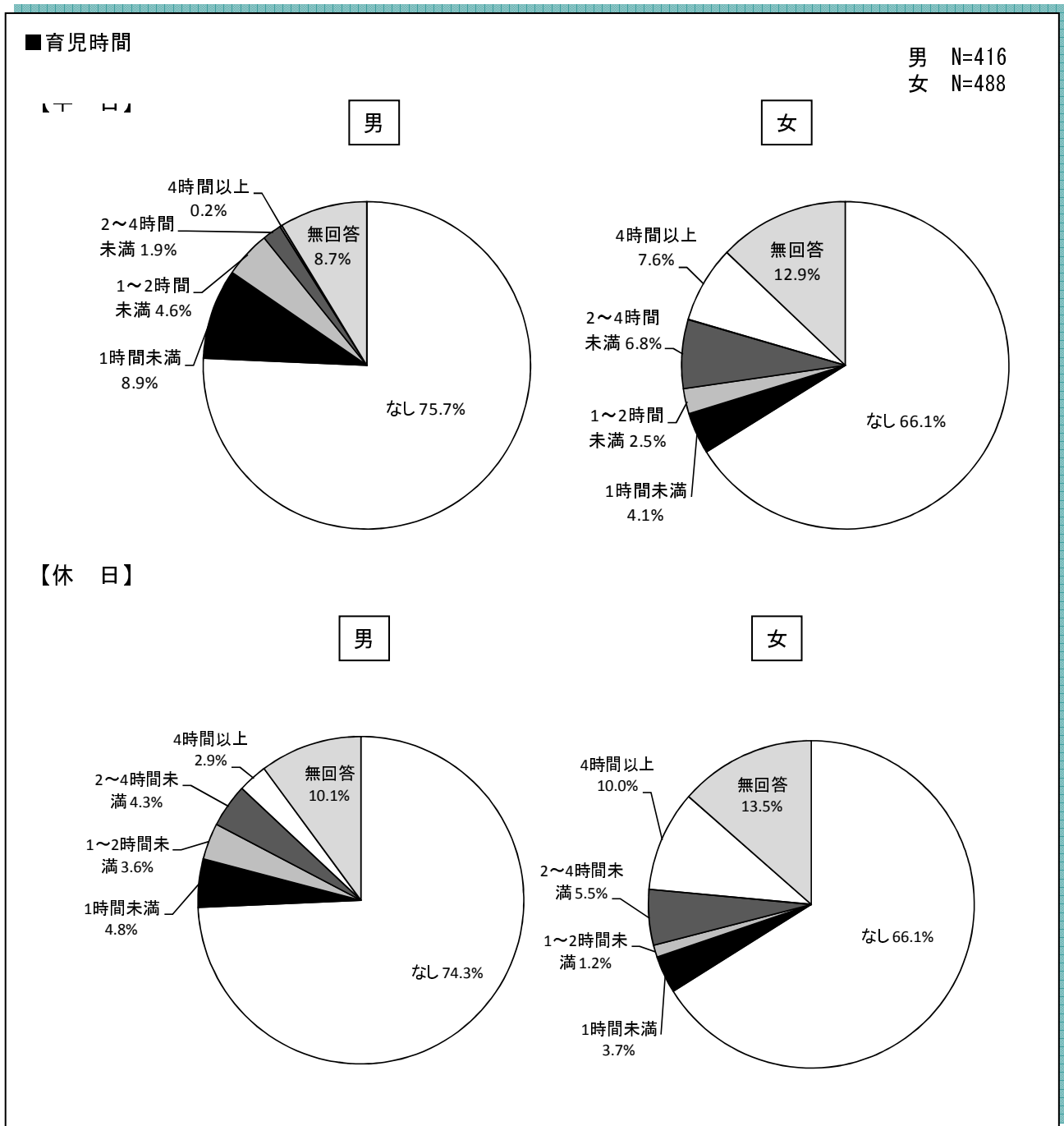
日曜日は、女性は「2～4時間未満」が41.2%、「4時間以上」が28.3%と2時間以上が69.5%となり、平日に比べ4.4ポイント多い。男性は「1時間以上」が28.3%と、平日を8.4ポイント上回っている。男女とも日曜日の家事時間は平日に比べて長い傾向にある。



③育児時間

育児時間は、平日では、女性は育児時間を回答した割合は21.0%となり、うち「4時間以上」が7.6%、「2～4時間未満」が6.8%となっている。男性は育児時間を回答した割合は15.6%となり、うち「1時間未満」が8.9%、「1～2時間未満」が4.6%となり、女性に比べて育児時間が短い。

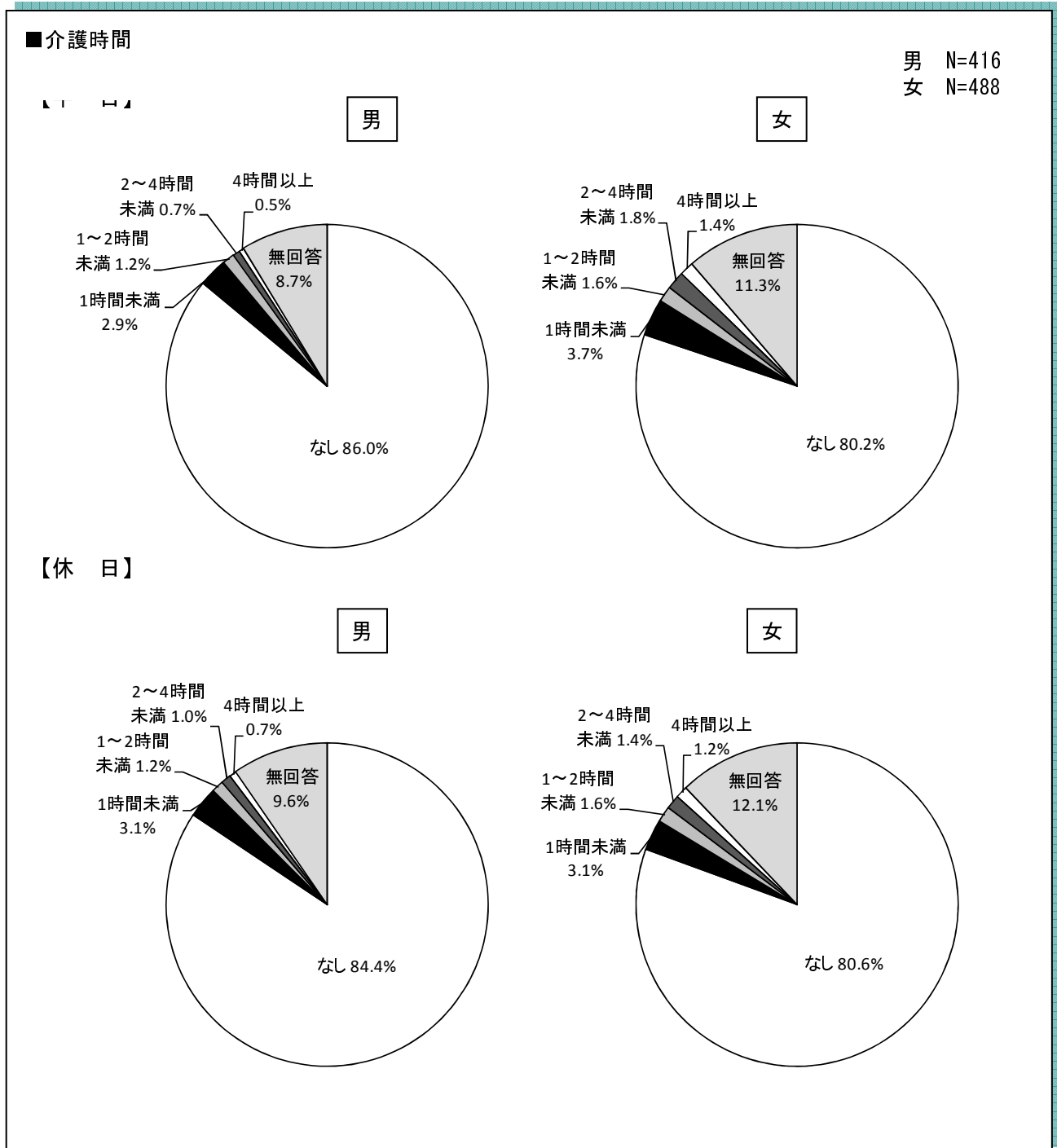
日曜日は、育児時間を回答した割合は女性が20.4%、男性が15.6%となり、平日とほぼ変わらないが、男性は2時間以上が7.2%と、平日に比べて5.1ポイント多い。



④介護時間

介護時間は、平日では、女性は介護時間を回答した割合は8.5%、男性は5.3%となり、女性の方が若干多い。

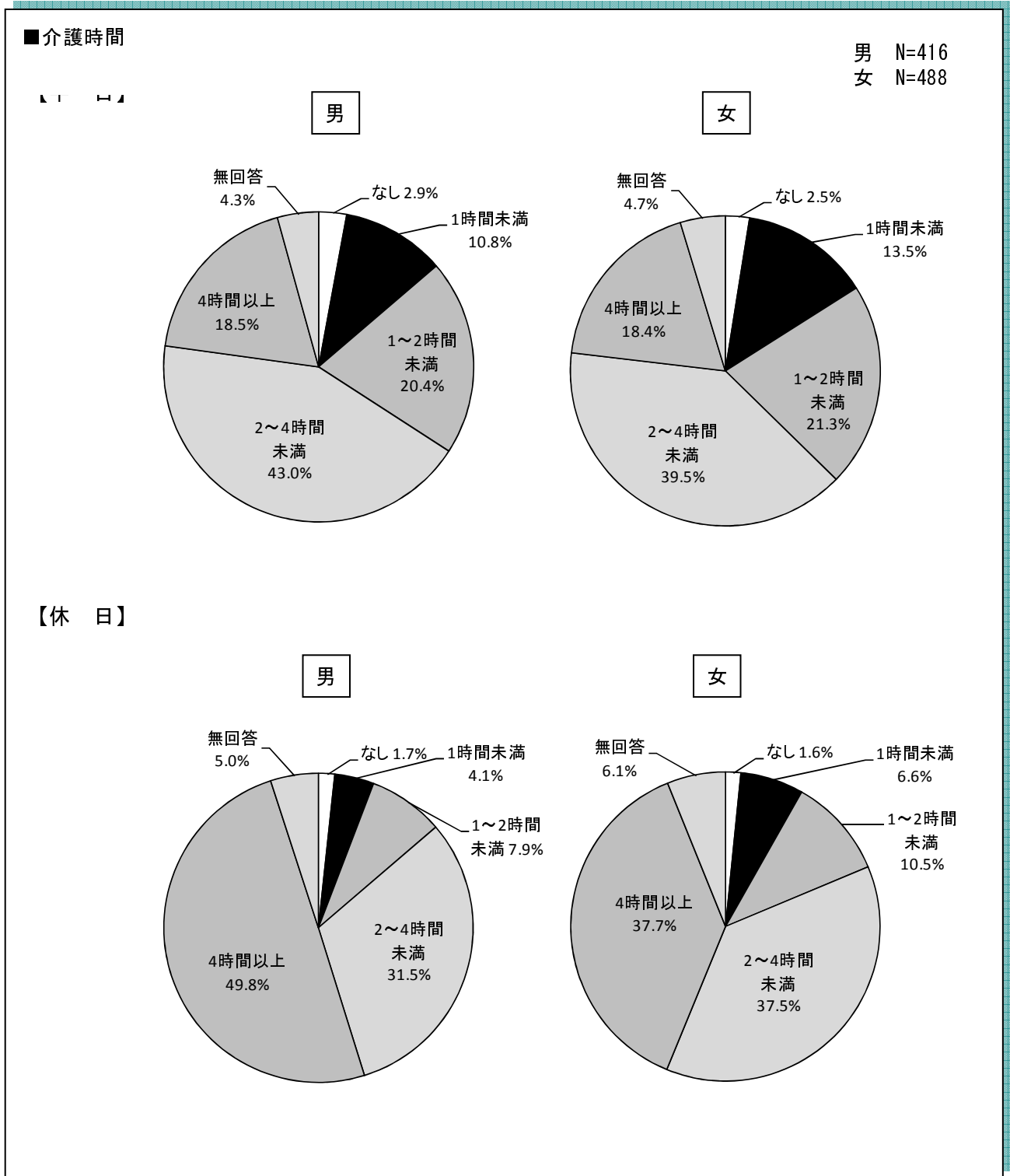
日曜日は、女性は介護時間を回答した割合は7.3%、男性は6.0%となり、平日とほぼ変わらない。



⑤余暇時間

余暇時間は、平日では、男女で大きな違いは見られず、男女とも「2～4時間未満」が最も多く、それぞれ43.0%、39.5%となっている。

日曜日は、男性の方が長い傾向にあり、「4時間以上」が49.8%と、女性に比べて12.1ポイント多い。



(2) 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方について

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方については、「反対」が25.1%、「どちらかといえば反対」が30.5%と、合わせて55.6%が反対としており、賛成とした割合21.7%（「賛成」10.3%+「どちらかといえば賛成」11.4%）を大きく上回った。

前回調査と比べると、ほぼ同様な傾向にある。

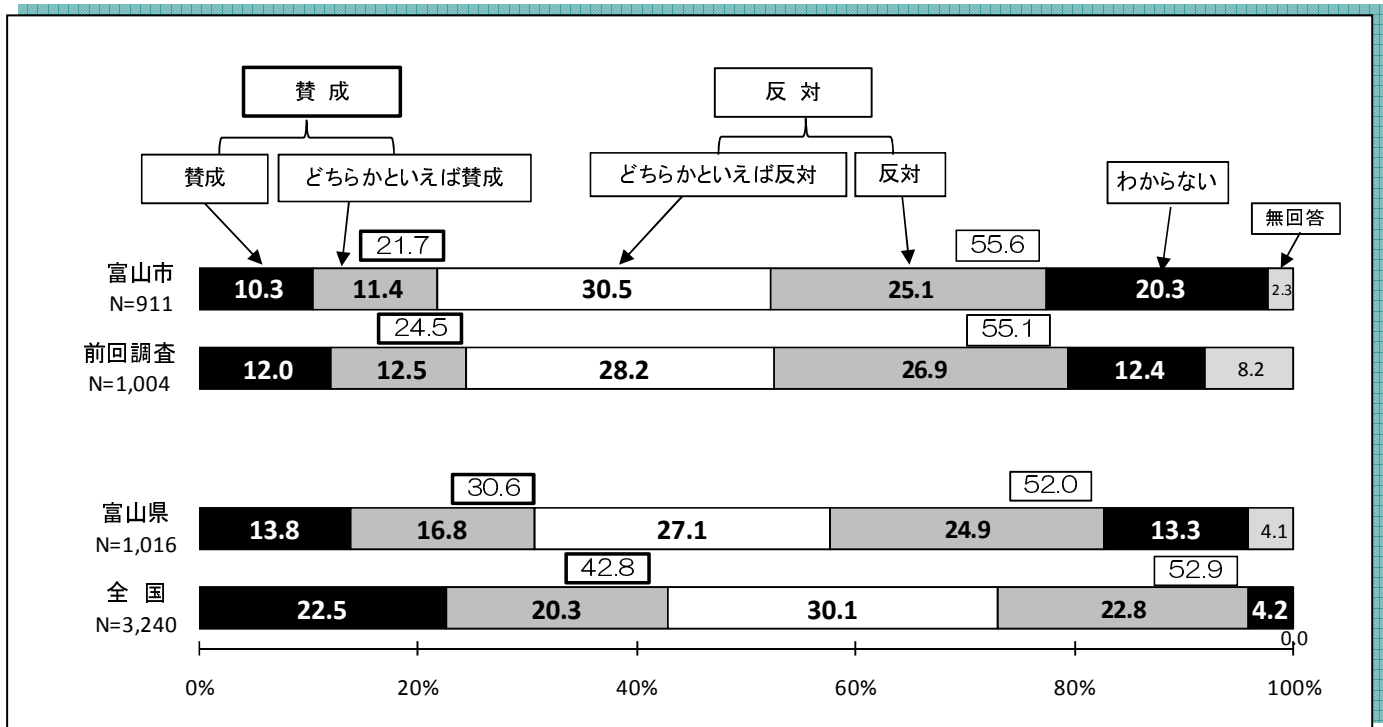
男性は反対とした割合が60.5%と6割を占め、女性（52.0%）を8.5ポイント上回っている。

女性は賛成とした割合が26.6%と、男性（15.9%）に比べて10.7ポイント多い。特に「40歳代」では賛成とした割合が40.0%と、反対とした割合（33.3%）を6.7ポイント上回った。

富山県、全国と比べると、ともに「反対」とする割合が5割を超え、「賛成」とする割合より高くなっている。

「賛成」とした割合は、富山市21.7%、富山県30.6%、全国42.8%となり、富山市は富山県、全国に比べて8.9ポイント、21.1ポイント少ない。富山市は子どもを生み、育てることの重要性についての意識が高いと思われる。

■ 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方について



内の数値は賛成（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）とした割合
 内の数値は反対（「反対」＋「どちらかといえば反対」）とした割合

(3) 子どもの数の理想と実際

理想とする子供の数は「2人」が46.7%と最も多く、「3人以上」が36.0%、「1人」が4.5%、「0人」が1.4%。実際に持つつもり（持った）の子供の数は「2人」が47.6%、「3人以上」が18.7%、「1人」が13.4%、「0人」が7.0%となっている。

実際に持つつもり（持った）の子供の数は「3人以上」が大きく減少し、理想に比べ17.3ポイント少なくなっている。その分、「1人」「0人」がそれぞれ8.9ポイント、5.6ポイント多くなっている。前回調査と比べても、男女別でみてもほぼ同様な傾向にある。

(4) 子育てと仕事について

子育てと仕事については、「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が最も多く40.9%、「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ともほぼ等しく関わる」が23.8%、「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が17.6%、「子育ては女性の仕事だから、女性は職業をもたずに子育てに専念する」が6.1%となっている。

前回調査と比べると、「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が7.0ポイント減少している。

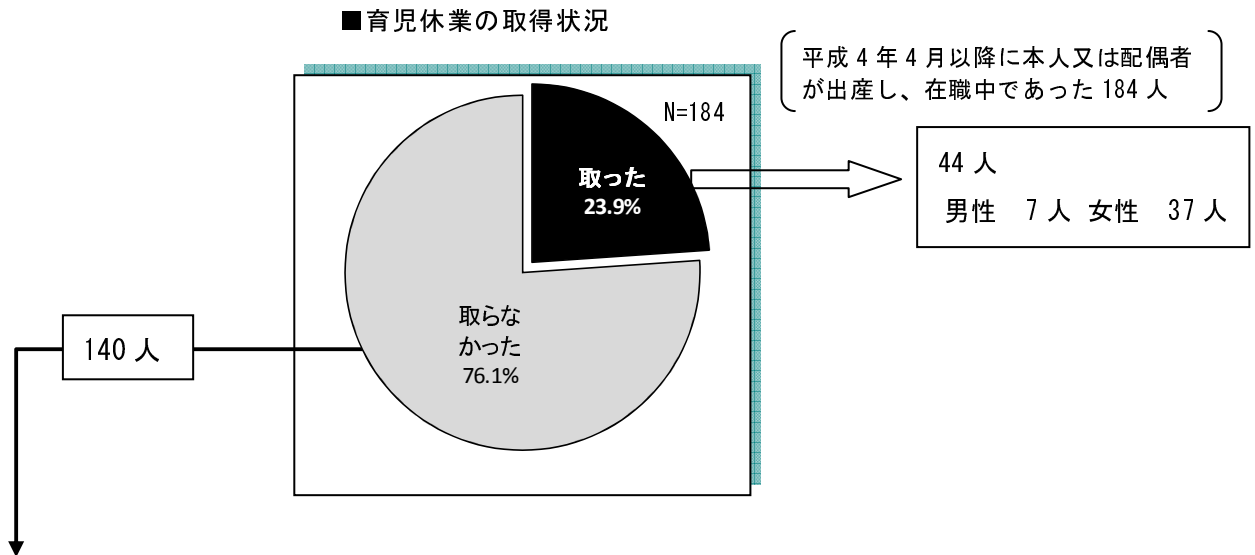
女性は「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ともほぼ等しく関わる」が27.3%と、男性（20.0%）を7.3ポイント上回っている。特に子育てに関わる女性の「20～30歳代」が多い。また、「20歳代」「70～79歳」で「子育ては女性の仕事だから、女性は職業をもたずに子育てに専念する」が12～15%みられ、他の年齢層に比べて多くなっている。

男性は「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が45.9%と、女性（36.9%）に比べ9ポイント多い。

(5) 育児休業について

① 育児休業の取得状況

育児休業を「取った」割合は23.9%。女性は43.5%と前回に比べて6.5ポイント減少、男性は7.1%と、前回に比べて5.9ポイント増加した。



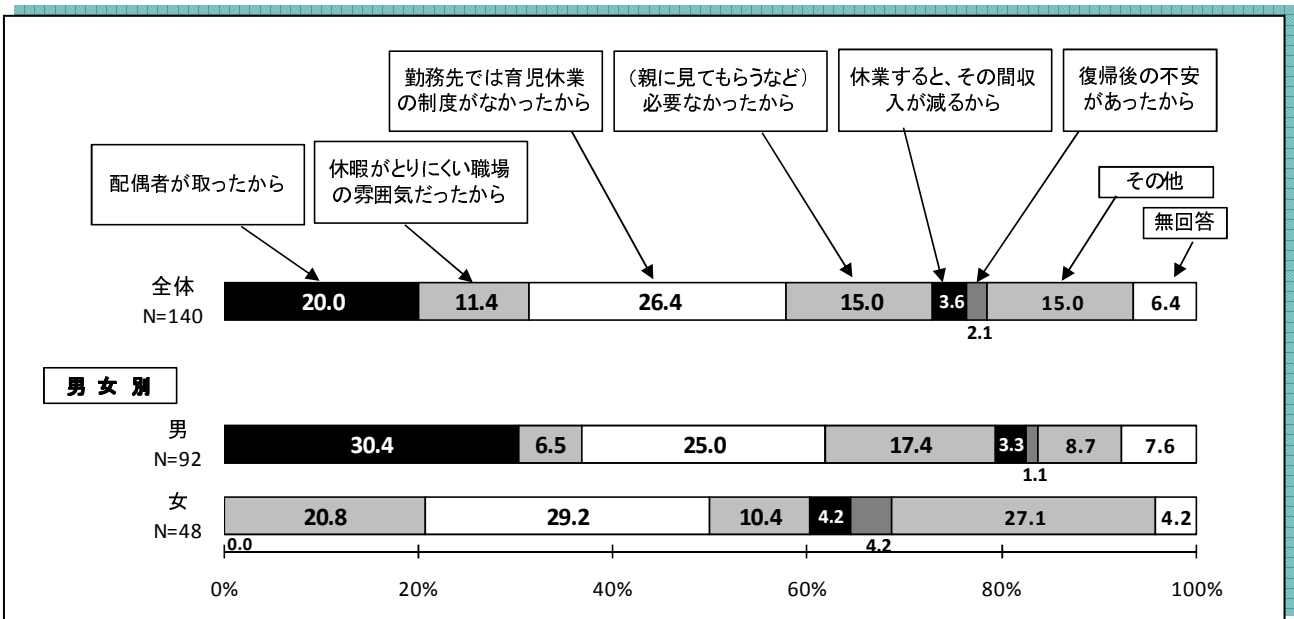
② 育児休業を取得しなかった理由

育児休業を「取らなかった」140人の、取らなかった理由は、「勤務先では育児休業の制度がなかったから」が最も多く26.4%となっている。

女性は「勤務先では育児休業の制度がなかったから」が29.2%、「休暇が取りにくい職場の雰囲気だったから」が20.8%と、男性に比べて多くなっている。男性は「配偶者が取ったから」が30.4%となっている。

事業主に対して社内制度の整備を促すとともに、子育てしている人への制度の周知や情報提供を行っていくことが必要と思われる。

■ 育児休業を取得しなかった理由



③男性の育児休業の取得について

男性が育児休業を取ることに、「取った方がよい」は45.7%と、前回調査に比べ、6.2ポイント多くなっている。「取る必要がない」は10.3%、「どちらともいえない」が35.2%となっている。女性の方が「取った方がよい」が若干多い。

(6) 高齢者介護の担い手

高齢者介護の担い手は、「配偶者」が45.0%と最も多く、次いで「娘」が15.0%、「息子」が11.9%となっている。

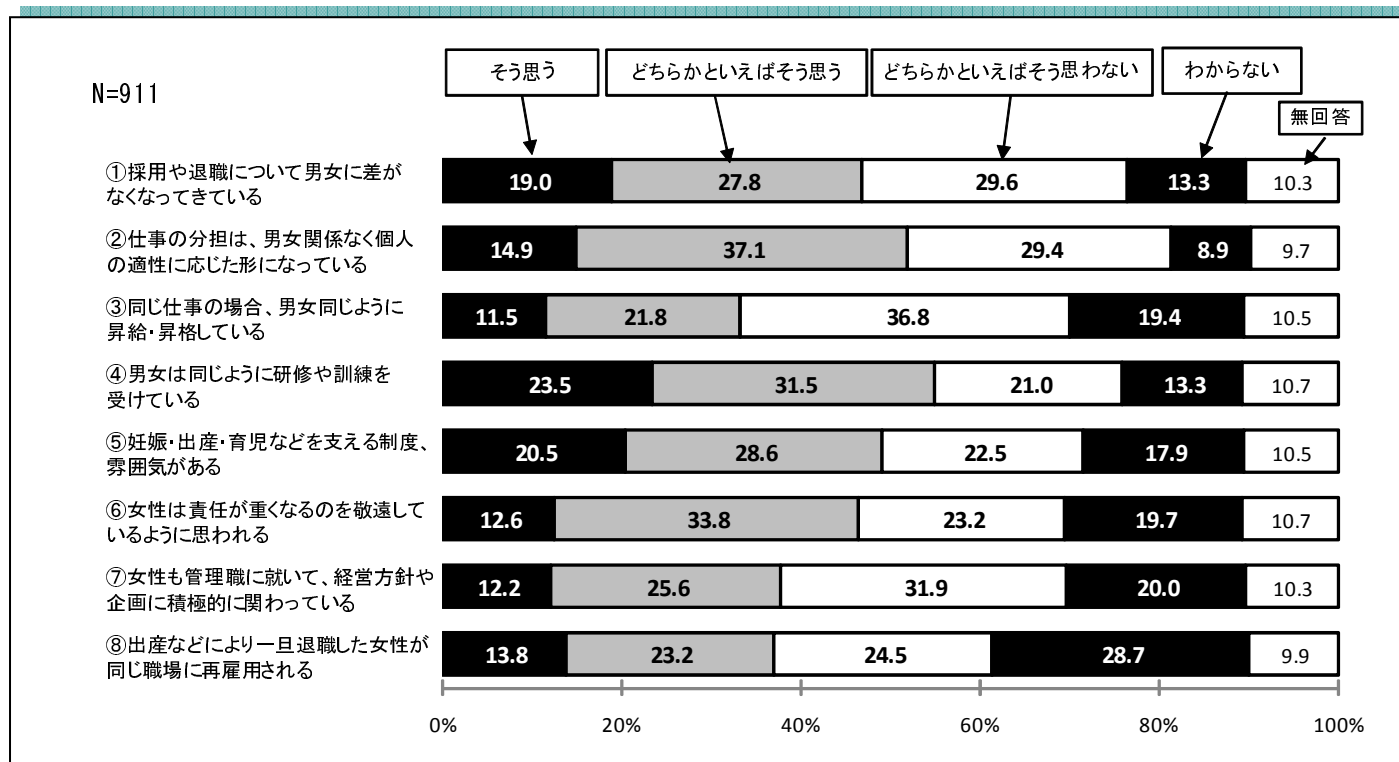
男性は「配偶者」が52.4%と、女性に比べて13.3ポイント多い。女性は「娘」が20.3%と男性を11.4ポイント上回っている。

3. 仕事について

(1) 職場における男女格差の意識

職場での男女差がなくなってきていると思うことは、「研修や訓練」「仕事の分担」でそう思うとした割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が多くなっている。一方で、「昇給・昇格」や「管理職への登用・経営方針や企画への関与」においては、「どちらかといえばそう思わない」が多く、男女格差があると意識している傾向にある。前回調査に比べると、職場での男女差がなくなってきていると意識している割合は多くなってきている。

■職場における男女格差の意識



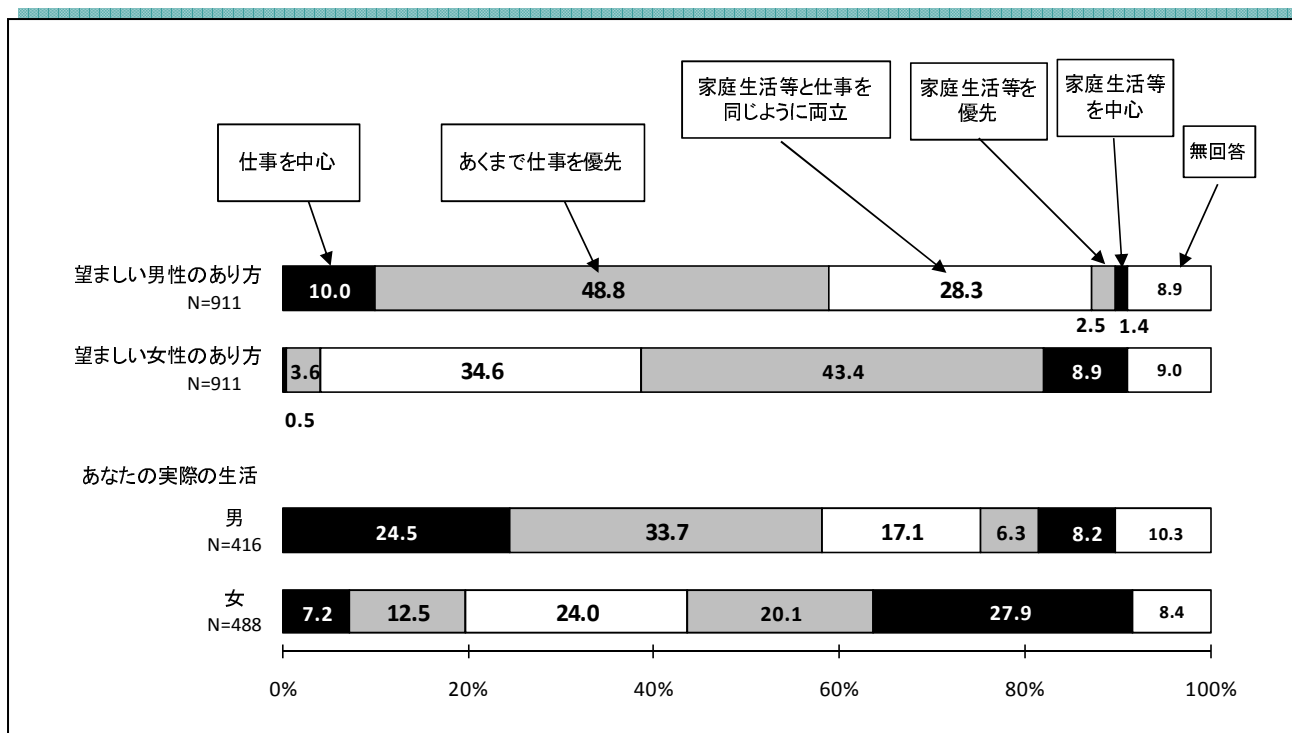
(2) 仕事と家庭生活等の望ましいあり方と実際

望ましい男性のあり方は、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「家庭生活等にも携わるが、あくまでも仕事を優先する」）は58.8%と6割近くを占める。「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が28.3%、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心にする」＋「仕事には携わるが家庭生活等を優先させる」）は3.9%となっている。

望ましい女性のあり方は、家庭生活等を優先とする割合が52.3%と5割を超える。「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が34.6%、仕事を優先とする割合が4.1%となっている。

実際の生活は、男性は仕事を優先とする割合が58.2%、家庭生活等と仕事の両立が17.1%、家庭生活等を優先とする割合が14.5%となり、女性は家庭生活等を優先とする割合が48.0%、家庭生活等と仕事の両立が24.0%、仕事を優先とする割合が19.7%となっている。

■仕事と家庭生活等の望ましいあり方と実際



(3) 仕事と家庭の両立に必要なこと

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要だと思うことは、「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が最も多く56.2%、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力」が50.7%、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する」が44.0%、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が43.1%となっている。

女性は「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が60.7%、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力」が56.6%と、男性に比べそれぞれ9.3ポイント、12.4ポイント多くなっている。また、「育児や介護のために退職した人を再雇用する」が39.8%と、男性を10ポイント上回っている。

仕事と家庭を両立するためには、男女双方の育児休業取得や多様な働き方の普及・促進を図るなど、働きやすい職場環境が整備されるよう、また家族の協力体制の確立に向けて、事業主・市民への意識啓発に取り組むことが大切と思われる。

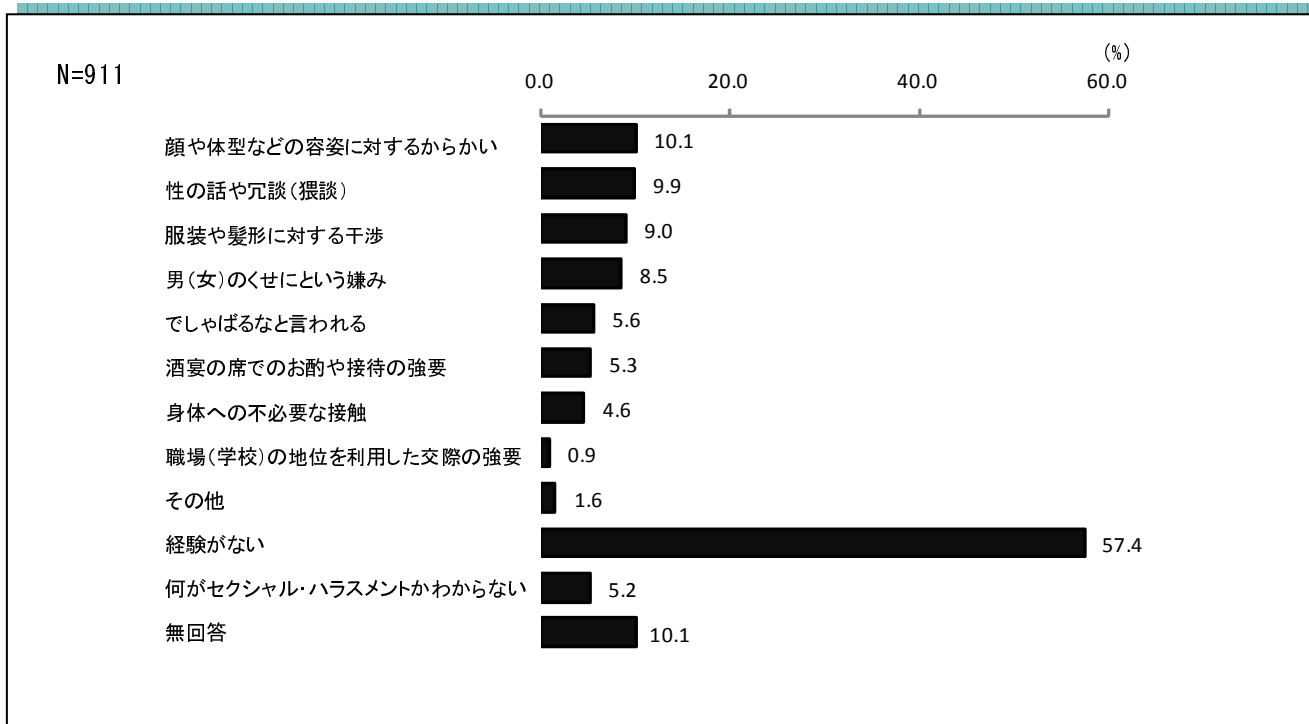
4. 人権について

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験（目撃経験を含む）

セクシュアル・ハラスメントの「経験がない」は57.4%と6割近くを占める。

経験のある内容は、男性は「性の話や冗談（猥談）」が、女性は「顔や体型などの容姿に対するからかい」「服装や髪形に対する干渉」が上位にあげられた。

■ セクシュアル・ハラスメントの経験（複数回答）



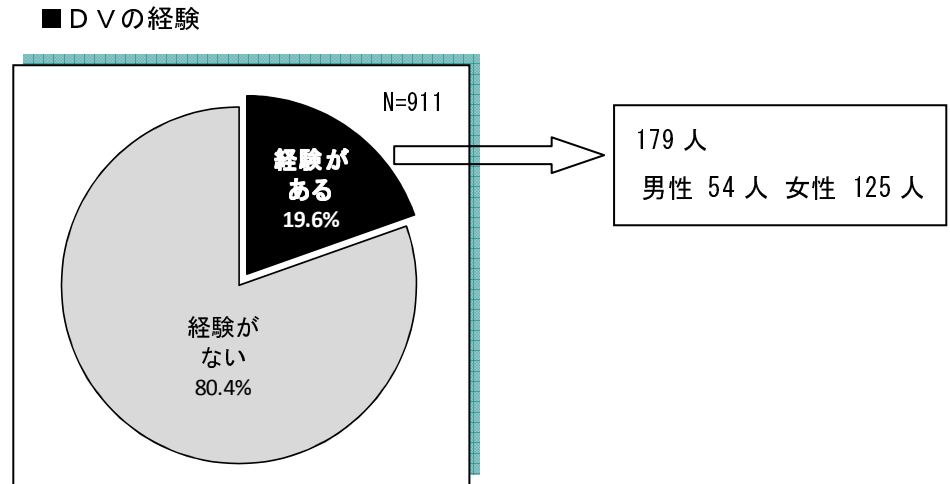
(2) セクシュアル・ハラスメントの相談先

セクシュアル・ハラスメントをされたり、みたりした時の対処は、「同僚や友人に相談した」が最も多く29.6%、次いで「相手に抗議した」が21.3%、「上司、先生に相談した」が15.6%、「家族・親戚に相談した」が13.4%となっている。「職場・学校内の相談窓口」や「職場・学校外の専門機関」に相談した割合は7~8%と少ない。また、「誰にも話（相談）していない」が10.6%、「誰に（どこに）相談すればよいか分からなかった」が8.3%であり、気軽に相談できる窓口を充実させ、情報発信していくことが必要と思われる。

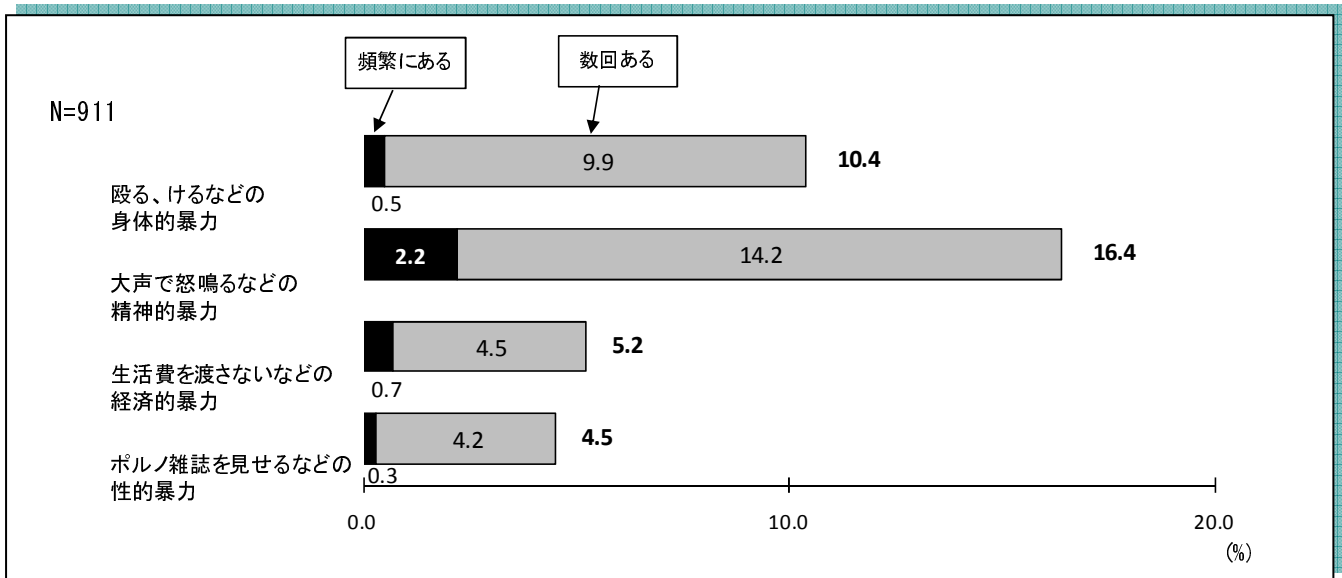
女性は「同僚や友人」「上司、先生」「家族・親戚」に相談した割合が男性を上回っている。男性は「相手に抗議した」が女性に比べて多い。

(3) DV（パートナー間の暴力）の経験

DVを受けた経験があると答えた人は、全体で19.6%、男性は13.0%、女性は25.6%となっている。この中で精神的暴力の経験が一番多く16.4%（「頻繁にある」2.2%+「数回ある」14.2%）。次いで身体的暴力は10.4%（「頻繁にある」0.5%+「数回ある」9.9%）、経済的暴力は5.2%（「頻繁にある」0.5%+「数回ある」4.5%）、性的暴力は4.5%（「頻繁にある」0.3%+「数回ある」4.2%）となっている。



■ DV（行為別）の経験



(4) DVの相談状況

1つでもDV経験があったとした179人が誰かに相談したかについては、「相談した」は33.0%、「相談しなかった」が53.0%、「相談できなかった」は6.7%となっている。

DVを受けていることを相談したとした59人の相談先は、「家族・親戚」が59.3%と最も多く、次いで「友人・知人」が47.5%となっている。

一方、DVを受けていることを「相談しなかった」「相談できなかった」とした107人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く42.1%、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が36.4%、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」がそれぞれ26.2%となっている。

5. 男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて

(1) 男性が家事等参加するために必要なこと

男性が家事、子育て等に参加していくために必要だと思うことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が61.0%と最も多く、次いで「男性が家事などを行うことへの、男性自身の抵抗感をなくすこと」が48.0%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が37.9%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が34.4%となっている。

■ 男性が家事等参加するために必要なこと（複数回答）

